

大阪モノレール(仮称)荒本駅新築工事

■ 事業目的

大阪モノレール南伸に伴う(仮称)荒本駅の新設

■ 事業概要

建設地	東大阪市荒本北二丁目地内 外 (景観行政団体:東大阪市/適用される景観計画:東大阪市景観計画)		
	従前 (現況)	用途	—
		規模	—
計画施設	用途	駅舎	
	規模 (想定)	RC造(土木建築構造物)、地上3階建て(2階コンコース階、3階ホーム階)、延べ面積約850㎡	

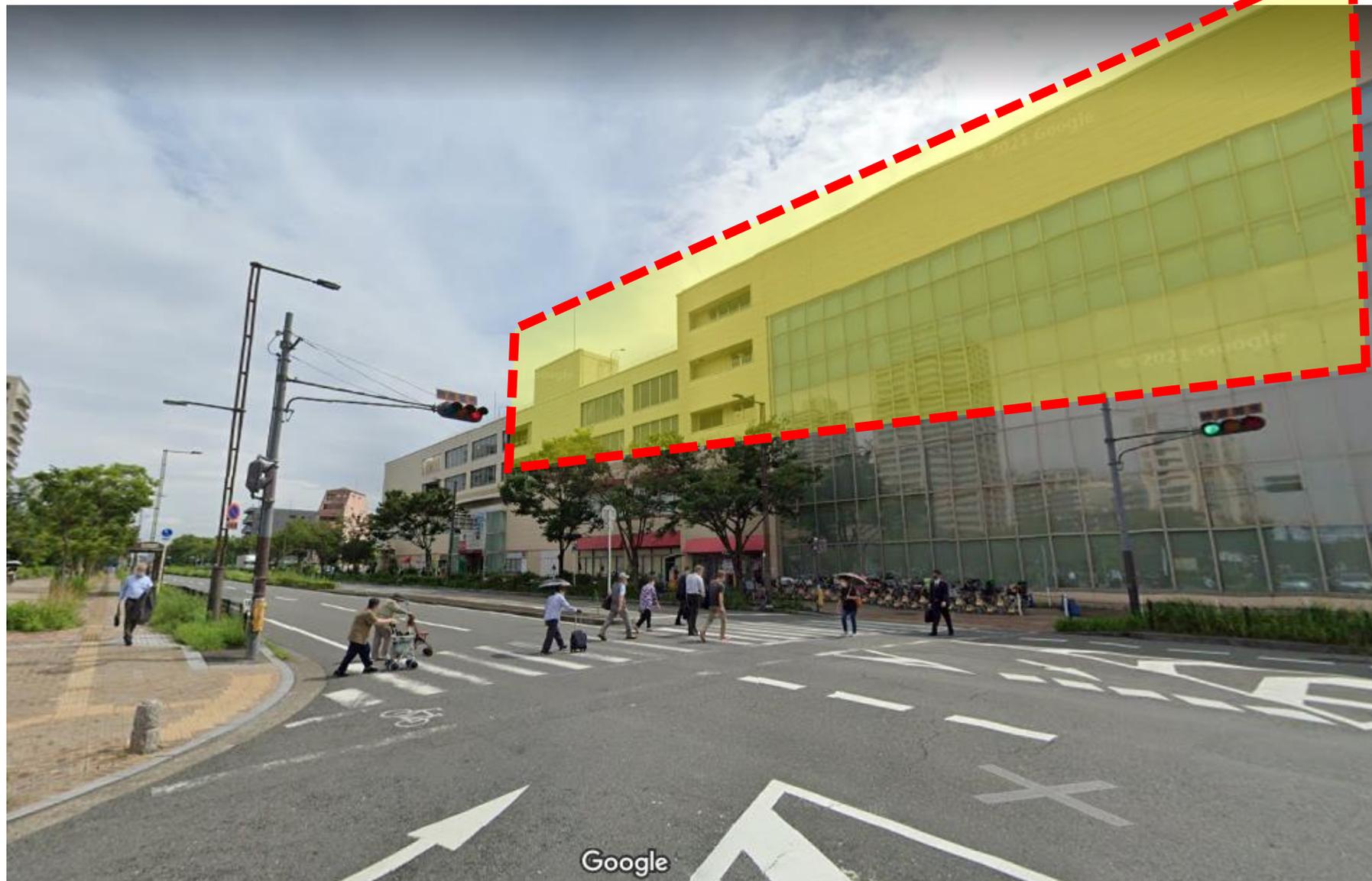
■付近見取図



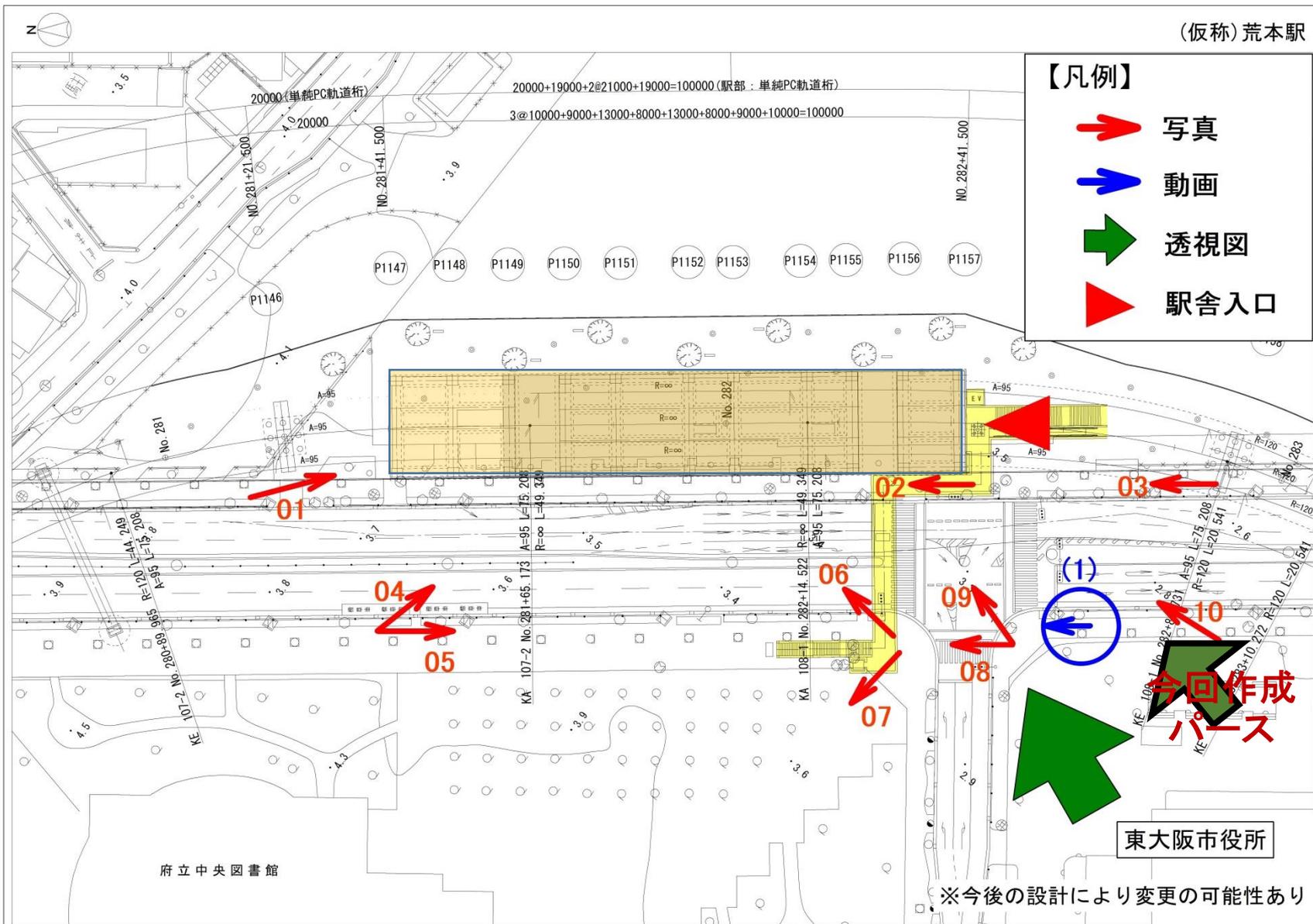
■ 付近見取図(航空写真)



■ 建設地(南西側より)



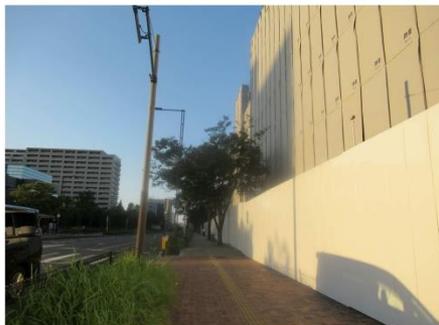
■ 周辺状況



■ 周辺状況:



01



02



03



04



05



06



07



08



09



10

■ コンセプト: (仮称) 荒本駅

『人が集まる市の中心拠点』



・夜景遺産



【日本夜景遺産(東大阪 JCT)】

東大阪市のランドマークである市役所本庁舎の展望ロビーからは地上 100m からナトリウムランプや車のライトで照らされた東大阪 JCT とその向こうに広がる都市の夜景を望むことができる。ここからの眺めは日本夜景遺産にも登録され東大阪市の重要な観光資源の一つとして知られている。

■ 東大阪市の中心拠点

- ・計画地は東大阪市のほぼ中心に位置する。
- ・東大阪役所や府立中央図書館などが立地。
- ・近くに、近畿自動車道と阪神高速13号東大阪線が交差する東大阪JCTや地下鉄などがあり、交通の要衝。
- ・東大阪市内外から多くの人が集まりにぎわう東大阪市の顔となる拠点の形成と要衝を生かした玄関口としての新都心の再構築を目指している。

「東大阪市」の中心にふさわしいデザインを外観に取り込む

● デザイン概要【コンセプトカラー】

- ・ナトリウムランプで照らされた東大阪 JCT の夜景をイメージして「オレンジ」などを採用する。



■ パース:(仮称)荒本駅

前回パース



※イメージのため今後設計の進捗により変更する可能性もあります

■ 目標設定シート: (仮称)荒本駅

事業概要						
事業名称	大阪モノレール延伸事業（荒本駅）			工事種別	新築	
敷地概要	事業地の位置	東大阪市荒本北二丁目地内 外				
	用途地域	商業地域		防火地域	防火地域	
	敷地面積	未確定	建蔽率	80%	容積率	400%
	その他制限等	なし				
3. 事業地周辺の景観の特徴を確認する						
事業地の立地特性や周辺のまちなみ・景観資源等の確認						
計画地周辺の地形上の特徴	平坦な市街地					
計画地周辺の景観を構成する主な要素	公共施設（東大阪市役所、大阪府立中央図書館）					
計画地周辺の景観を構成する特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・東大阪市役所、大阪府立図書館等がある市の中心部で、現状は外壁や屋根の色について統一感はない。 ・東大阪ジャンクションが日本夜景遺産に認定されている。 					
道路（沿道）から計画地までの景観上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・東大阪市道沿道には、カラー舗装、インターロッキング舗装の歩道あり。 ・東大阪市道沿道の植樹帯には、シャリンバイ（低木）、ケヤキ（中木）があり統一が図られている。 					
計画地周辺の照明等、夜間景観の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・道路照明により夜間も比較的明るい。 					
その他 ※地域の風土、歴史、文化等、景観形成に影響のある、地域の成り立ちに関する要素を記載	<ul style="list-style-type: none"> ・市庁舎、府立図書館、高層府営住宅、クリエイション・コア東大阪（ものづくりビジネスセンター大阪）が集積するエリアで「市の中心拠点」として都市景観を形成している。 					
事業地の周辺からの見え方の確認						
計画地を望む主な視点場	遠景	生駒山系				
	中景	周辺道路など開けた場所				
	近景	周辺道路、建物など				
計画地の見え方	遠景	東大阪市役所の手前に駅舎が確認できる				
	中景	駅舎の壁面、屋根形状が確認できる				
	近景	駅舎の壁面仕上げが確認できる				

■ 目標設定シート:(仮称)荒本駅

4. 事業地周辺の景観の特徴を確認する		
施設の別	景観形成指針	景観に関する基本的な考え方
公共建築物	景観づくりの手本としての景観形成 周辺景観との調和、道路との一体的な景観形成、地域性を活かしたデザインなど、景観づくりの手本として良好な景観形成を行う。	行う ・幹線道路である東大阪市道に近接していることから安全に配慮し、また、東大阪役所、大阪府立図書館等がある市の中心部であることから、景観形成重点地区における色彩基準をふまえ、周辺と調和させる。
	設備関係附帯物の外観配慮 建築物周辺の附帯物（高架水槽、ダクト類、エアコン室外機等）については、建築物との一体化や敷地の外から見えない位置への配置など、外観に配慮する。	配慮する ・コンコース階北側に設置する室外機置場は、外壁仕上げを駅舎壁面と同色とする等、目立ちにくい計画とする。
	駐車場・ごみ置き場等の外観配慮 駐車場、駐輪場及びごみ置き場等を敷地の外から見える場所に設置する場合は、植栽により修景し、又は建築物等と一体化するなど、外観に配慮する。	配慮する ・接道からの安全な動線を確保しつつ、外部から目立ちにくい配置とする。
	適切な維持管理・耐震改修時の外観配慮 適切な維持管理を行い、外観を美しく保つとともに、耐震改修等の際にも、外観に配慮する。	配慮する ・幹線道路直近に位置することから、維持管理の低減を図るため既設区間同様に金属パネルの外壁とする。
4-2. 共通指針のチェック		
		※該当する構成要素の指針のみ記入してください
構成要素の別	景観形成指針	景観に関する基本的な考え方
附属物	照明方法、夜間景観への配慮 照明施設は、周辺の状況に応じた照明方法等により、夜間景観が良好となるよう配慮するとともに、光による害が生じないように努める。	該当なし ・夜間の営業時間における駅舎の照明設備は、プラットホーム及びコンコース内であるため、周辺に対して光による害は生じないと考える。
	標識・サイン等 標識・サイン等は、掲出場所に留意し、分かりやすく、統一性のある質の高いデザインを採用したうえで、数や規模を必要最小限とするよう努める。	努める ・運行主体となる大阪モノレール株式会社の社内基準に基づき、周辺から駅までの動線や駅名が認知できるサイン計画とする。

■ 目標設定シート:(仮称)荒本駅

5. 計画地の景観上、最も重要なポイントを確認する

※1～3の確認結果を踏まえ、計画地の景観上、重要なポイントを記載してください

- ・既存の公共施設等の集積によって形成された良好な景観に配慮する。
- ・日本夜景遺産に認定されている東大阪ジャンクションが近くにある。
- ・自動車、歩行者及び利用者からの視点に留意する。

6. 景観形成の目標（景観に関する考え方）を立てる

※1～5の確認結果を踏まえ、本事業における景観に関する考え方について記載してください

No	内容
1	モノレールの既設区間（大阪空港～門真市）との色、デザイン等の連続性を確保することで、利用者の利用促進、利用者の利便性につなげる。
2	既存公共施設等の集積により良好な景観が形成されており、駅舎は「市の中心拠点」に相応しい色彩とする。
3	附属施設は外観に配慮する。
4	
5	

■ 対応報告シート:(仮称)荒本駅

項目	アドバイザーからの意見	アドバイスへの対応	
既存駅との違い	第1回アドバイザー会議での意見		
	<p>・延伸される駅と既設の駅ではデザインが違う。大阪空港駅から門真市駅だと、プラットフォームとコンコースの部分が分離したような形で駅舎がデザインされていた。千里中央駅は、今回の駅よりも格好良い、それは踏襲して欲しい。</p> <p>・既に営業している区間とのトータルデザインという観点で、屋根や外壁でホームを覆う形というのは踏襲されているが、細部を見ると違う。細かな違いで利用者に与える印象が違ってくる。ホームを覆う形状というのが、利用者が思い描くモノレールの形、そのあたりは外さない方が良い。</p>	<p style="text-align: center;">対応状況</p>	<p style="text-align: center;">対応済み</p> <p>・既存駅とデザインを合わすようにしており、また、ホーム階（軌道階含む）は、コンコース階よりも駅舎としての幅が大きくなることも同じであるが、分離に関しては、明度差等を設けることで対応。</p> <p>・形状については、細部において多少の違いはあるが、屋根や外壁でホームを覆う形は踏襲することは堅持し、利用者が思い描くモノレールの形から外れないように配慮。</p>
周りと関係性	<p>モノレールに乗っていると、どこの駅に着いたのかが分からないことがある。乗客からみて、サインなど周りがどのように見えるかも大事で、乗っていておもしろい、周りと関係性のなかで表現して頂きたい。</p>	<p style="text-align: center;">対応状況</p>	<p style="text-align: center;">対応済み</p> <p>サインについては、利用者の利便性や安全面を考慮し、各駅にて統一化するようにしているが、運行主体の大阪モノレール株式会社の社内基準に基づき、周辺から駅までの動線や駅名が認知しやすい計画とする。</p>
特徴ある駅舎	<p>・モノレール一本で大阪の良さが伝わるように。駅舎というのは、その地域の顔であり、愛されるアイコンである。地域の景観をリードするようなふさわしい風格を備えたデザインになるように目標をたてていただきたい。</p> <p>・荒本駅は、変わった位置にある。大阪モノレールの良いところは、視点場をつくれるということもある。道路から離れて図書館等が見られますので、その点を考慮して窓の配置や量を検討して欲しい。</p>	<p style="text-align: center;">対応状況</p>	<p style="text-align: center;">対応済み</p> <p>各駅について、建設地域の特性をふまえたコンセプトを作成した。</p>

■ 対応報告シート:(仮称)荒本駅

項目	アドバイザーからの意見	アドバイスへの対応	
景観を構成する既存構造物の成	この地域の骨格をつくっているのが、既存の構造物で、そのようなものが乱立していくと、統一感のない乱れた感じになる。それを整備していくような形で挿入するという視点で目標設定シートに記載してほしい。	対応状況	対応済み
駅舎の見え方	軌道がカーブしている。モノレールの車両が駅に進入して来る風景は鉄道ファンからするとたまらない。そうした風景を見る場としても考えて欲しい。	対応状況	対応済み
近景ですが、高架下がどうなるかが気になりました。そこも配慮して欲しい。		対応状況	検討中
附属施設	<ul style="list-style-type: none"> ・附属施設（連絡デッキや階段、エレベーターなど）のデザインが重要。連絡デッキが架かっていたり、スロープがあったりするが、そのあたりの検討をして欲しい。 ・駅舎と連絡デッキは明度差等で分けた方が良い。駅舎の形がきれいに見えるような工夫をして欲しい。 	対応状況	検討中
		附属施設については詳細設計中であるが、アドバイスをふまえて検討する。	